

第 33 突擊隊戰時日誌

—第 33 突擊隊—

戰訓部分抜粹資料

昭和 20 年 6 月



大神回天基地資料

- ・ 本資料はアジア歴史資料センターの「JACAR(アジア歴史資料センター)Ref.C08030310700、昭和20年3月1日～昭和20年7月31日 第11突撃隊戦時日誌ほか(防衛省防衛研究所)」より戦訓部分を抜粋したものです。
- ・ 旧字体は新字体になおして記載しました。その際に、判読できなかった箇所は●としました。
- ・ この資料作成にあたり何度も見直していますが、間違いがあるかもしれませんので、本資料の副次的なものとして扱ってください。
- ・ 本資料を取り扱ったことによる損害等はこちらは一切関知しませんので、ご了承ください。
- ・ 本資料の著作権はJARINに帰属します。
- ・ 引用や再配布は問題ありませんが、事前に連絡をしてください。

回天に関する戦訓所見

(一) 兵器

(1) 「ハッチ」周囲整流板は強度を増加し舟艇の触衝により「ハッチ」に被害を及ぼさざるを要す

(2) 軌条長き場合及び多数同時に進出の場合は「ウィンチ」15馬力程度の設置を要す

(3) 格納庫内照明灯の設置の要あり

(4) 格納庫の回天の吹掃に小型の気蓄器を使用せば移動吹掃に便なり

(5) 基地進出回天・潜水艦進出回天と同様水密気密を確保するを要す

(二) 施設

施設標準に洗浄釜及井戸の設置を●●を要す

(三) 基地物件

(1) 架台の車の径を大とし内側突出部を多くするを要す

(2) ワイヤーは350米程度なるを要す

(3) 滑車の強度増加整備の完璧回天揚取時焼着式は固定位置不良其の他の為「●●」回らず揚取に困難を感じざる事多し

(4) 神楽棧の棒を長くする要あり。少々共左右1名●着きうるを要す

(5) 水際附近●水中に●を傾斜度異なるは発進の際水平部分にて架台●止しその度発進困難となる傾斜度一定なるを要す

(四) 作業上の注意・栄松

(1) 潜水艦離脱前●室内の浸水の有無を検し必ず溜水の排水を行うを要す

(2) 潜水艦離脱前回天を曳索を取りおき離脱と同時に潜水艦より放出しそれを合図として曳航を可とす

(3) 揚取は尾部を壕奥になる如くするを可とす。

(五) 其の他の所見

(1) 新基地の指導者の●●ても既成基地にて発進揚取の訓練をなさしむるを要す

(2) 基地員並に架台引揚用「ワイヤー」等は兵器進出より先発せしむるを要す

(3) 鉄道なき僻地への進出の際の「トラック」及燃料等運搬車両の考慮を要す

(4) 格納壕及び軌条付近には極力植木をなすを要す。尚軌条の偽装には石を用ふれば有効なり

(5) 格納庫付近の棧橋及建物の建設は避けるを要す

(6) 壕内は全部板張及至塗板張をなすを要す。尚通風装置には留意を要す

(7) 訓練用横抱艇は各基地に少なくとも1隻配するを要す

(8) 以下栄松所見

(口) 栄松基地進出経過概要

第一回 回天揚収作業概要

一、揚収開始日時間、6月3日18:00潜水艦入港19:00潜水艦回天離脱発動機船にて曳航

二、作業人員基地員74名

三、作業割当小型発動機船2隻各作業員3名石舟2隻各船作業員2名

四、使用舟艇小型発動機船2隻石舟2隻

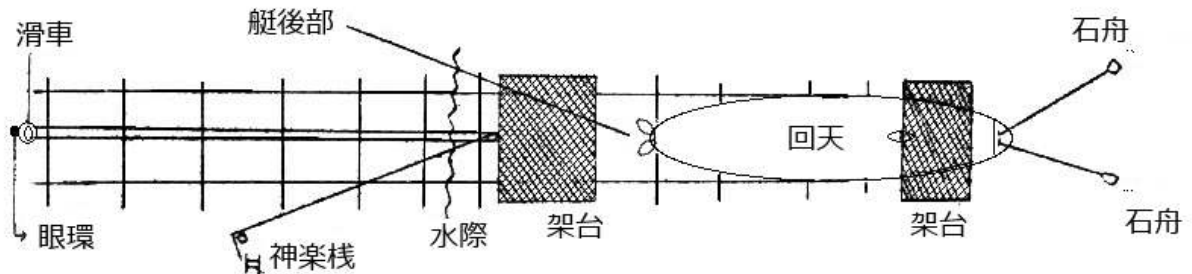
五、現地状況

(イ) 一・二・三墜道完成神楽棧設置所

(ロ) 回天引揚要具は基地員回天到着前装備

(ハ) 当日闇夜海面静穏

六、回天揚収は左図の要領



(回天揚収要領図・戦時日誌の図面を元に作成)

七、揚収所要時間第一号艇20:00-20:50 第二号艇22:30-23:00 所要時間約50分

八、揚収要領・回天尾部を一番架台に乗せる際頭部に3・4人乗せ尾部を2・3人で持上ぐる如くし尾部が架台に乗ると同時に飛下るる如くす。一番架台と二番架台の中心は回天の重心と一致せしむべし

第二回揚収作業概要

一、揚収開始時間6月4日17:00潜水艦入港19:00潜水艦回天離脱発動機船にて曳航せるも発動機船機械故障に付き揚収迄の費消時間約4時間

二、作業人員作業割当現地状況回天揚収要領第一回目と同じ

三、揚収時間第5号艇23:00-24:15所要時間1時間15分第6号艇00:20-01:00所要時間約40分

四、備考第5号艇浮量小にして主軸の浸水多し傾斜約30度及輕揚収後再び正規に揚収す

第四回揚収状況

第四随道45米掘削中32米にて落盤あり復旧困難なる為回天格納を1基に変更格納せり

一、揚収開始日時間7月2日潜水艦油津より発動機船にて曳航・油津より栄松迄曳航時間四時間曳航速力2節(ノット)当日波浪大

二、作業人員作業割当現地状況回天揚収要領第一回目と同じ

三、揚収時間・第7号艇24:00-00:50所要時間約50分

今回天進出に関する所見（油津と併記）

一、改善事項

（イ）兵器

（一）導門管取付部補完

（ロ）基地物件

（一）架台の車の径を大にし内側の突出部に●●するを要す突出少なきため外れ易し

（二）架台の旋回俯仰ふと必要少しの動揺によりても動き回天を乗せるに支障あり尚大製部及波に持上られ外るるを以て「ボルト」等にて中心軸を固定せしめ得るを要す

（ハ）施設

（一）神楽棧の地盤は「コンクリート」にて固むべし神楽棧の力量極めて少にして労力の割に引揚量極めて少なし神楽棧の力量を大ならしむる為ドラムの径を大にし握柄を長くするを要す

（二）軌道の先端が最干潮に於て2.5米迄敷設するを要す。今回敷設するものは最干潮1.5米なり

二、新設事項

（イ）物件

（一）引上用「ワイヤー」は回天2基に一本を必要とす空襲頻繁にして人力のみによる揚卸は出来ざる状況なり

（二）舳用又作業用として回天1基に対し索20耗のもの30米3本必要とす

（三）回天引卸訓練後回天吹掃として小型気蓄器各随道に1個宛必要なり

（四）由式圧縮「ポンプ」の設置を要す

（ロ）施設

（一）水際に滑車取付用環を回天引卸作業に使用す

（二）空襲下に迅速なる揚卸作業に必要とする為「ウィンチ」15馬力程度のもの一箇迄必要なり

三、作業上注意

（一）回天曳航等による舟艇の操縦は極めて慎重なるを要す。舵の取方悪ければ民間の発動機船8馬力小なる（6馬力程度）ため曳航しきれず同一場所を旋回す。

（二）潜水艦よりの離脱は潜水艦潜航する前に回天上発動機船より舳をとり潜水艦潜航回天を離脱せば舳をひきそのまま曳航す舳は30米位としておき回天浮上せば引きよせ適当に縮めればよし。しからざれば潜水艦潜航と同時に舳回天に引かれ発動機船は潜航する潜水艦の真上により危険なり。

第一回揚取に於て潜水艦深度15米離脱後5分にて浮上せるため回天潜水艦の電探機に衝り電極を破壊せり。第二回目より潜水艦は深度20米に潜航離脱後20分後浮上せり。かくすることにより潜水艦と回天との衝りなく作業す順調に進行せり。

（三）回天曳航用の発動機船は大発程度の馬力ある大型を必要とす

（四）引上機助用舟艇は海●し●へ錨を2つ以上準備するを要す

四、その他

- (一) 今回の潜水艦の入港時間は適当なり。当方面は空襲頻繁にして昼間揚収不可能なり
 - (二) 回天架台車揚収するとき車軸焼付の恐れある故使用前グリースを塗布すべし
 - (三) 水際の傾斜勾配は1/5より1/12が適当なりと認む。当基地に於て軌道1/5四本1/12一本なり
 - (四) 「レール」を敷設せば偽装を要す土砂等にて掩ふべし
 - (五) 壕内湿気のため回天発錆を招きを以て回天掩帆布を必要とす
 - (六) 回天格納隧道入口には爆風よけとして土壤等を設けるは敵に所在を暴露するものにして不可なり繩綱を作り隧道入口を掩ひ偽装すべきなり自然の松木を入口周囲に植るか或いは移動しうる植木鉢を造り下部を上にして掩ふ様にするも一法
 - (七) 基地員は樺島基地で10日間位訓練をすべきなり当基地隊の訓練は5日間なるも非常に為になり以後基地に於ける揚卸しも順調に行はれたり
- (終)